

『光る君へ』

夜をこめて 鳥のそらねは はかるとも
よに逢坂の 関は許さじ

清少納言

〔現代語訳〕

夜がまだ明けないうちに、ニワトリの鳴き真似をして騙して早く帰ろうとしても、決して逢坂の関は許しませんよ。

新しい年を迎え、NHK 大河ドラマでは、紫式部の一生を描いた「光る君へ」が始まります。かるたコラムでは、これから、その登場人物の和歌を紹介していきます。

まずは、紫式部と並ぶ平安時代の代表的な女流文学者・清少納言から。

中国の函谷関(かんこくかん)という関所ではニワトリの鳴き真似でも門を開けてくれたといういい伝えがありますが、夜な夜な通って来た藤原行成が、そんな嘘で早く帰ろうとしたので、清少納言はこの歌でデートをお断りしたそうです。これは「春はあけぼの～」という書き出しで有名な「枕草子」に載っている話です。

紫式部の「めぐりあひて～」という歌は既に紹介済みです。山陽小野田市ホームページに過去のコラムも載っていますので、ご覧ください。

山陽小野田かるた協会
久保久美子